

小麦の雪腐病を上手に防ぐには — 効き目の長い殺菌剤を利用して —

概要

雪腐黒色小粒菌核病・雪腐大粒菌核病とは…

- ・積雪下で小麦を枯らす重要病害
- ・主に道東など寡雪寒冷地帯で多発
- ・殺菌剤の散布が防除の基本



写真1. 雪腐黒色小粒菌核病の症状 写真2. 雪腐大粒菌核病の症状

問題点

- ・殺菌剤散布の防除適期は「**根雪直前**」
- ・しかし防除する前に根雪になる、また根雪が遅く散布からの期間が長い場合には防除効果が低下するなど、**適期防除が難しい**。
- ・圃場条件が比較的良好な地域では再散布することができるが、**再散布を判断する目安がない**。

効き目の長い（残効性に優れる）殺菌剤を利用することによって解決！

- ・散布から根雪始までの期間の降水が防除効果を低下させる主な要因である。
- ・必要な**効果レベルを維持できる能力（残効性）を評価した**。
- ・残効性に優れる殺菌剤の利用により根雪始直前よりも**早期に防除しても十分な効果が期待できる**。
- ・防除効果の低下が懸念される場合に**再散布が必要かどうか判断する目安を示した**。

成果

● 防除の目標

- ・発病度が25以上になると茎が枯死する個体が増加

融雪後に生育がばらつく要因となる。

防除の目標は発病度25以下

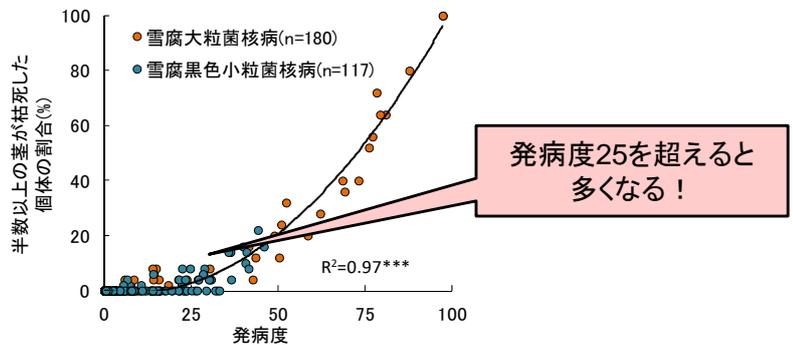


図1. 発病度と半数以上の茎が枯死する個体割合の関係

発病度25を超えると
多くなる！

● 殺菌剤の残効性の評価

- ・雪腐黒色小粒菌核病：**フルアジナム水和剤F**と**テブコナゾール水和剤F**が残効性に優れる。
- ・雪腐大粒菌核病：**フルアジナム水和剤F**と**チオファネートメチル水和剤**が残効性に優れる。



写真3 雪腐黒色小粒菌核病に対するフルアジナム水和剤Fの防除効果
(左：2008年11月5日散布、右：無散布、2009年4月16日の様子)

● 効き目の長い殺菌剤を利用した防除時期の考え方

表1. 雪腐病に対する殺菌剤の残効性と防除時期の考え方

対象病害	雪腐黒色小粒菌核病		雪腐大粒菌核病	
	フルアジナム水和剤F	テブコナゾール水和剤F	フルアジナム水和剤F	チオファネートメチル水和剤
残効性に優れる殺菌剤	フルアジナム水和剤F	テブコナゾール水和剤F	フルアジナム水和剤F	チオファネートメチル水和剤
希釈倍数	1000倍	2000倍	1000倍	2000倍
残効の目安(散布から根雪始までの降水量)	積算降水量	120mm	120mm	80mm
	日最大降水量	65mm	40mm	40mm
防除時期の考え方	上記の薬剤は残効性に優れることから、 根雪直前散布の必要はなく、より早期に防除を行うことができる。 散布から根雪始までの期間が長いと防除効果が低減する降水量に遭遇する確率が高くなるので、気象条件や圃場条件、散布機械の運用面などを考慮して無理のない範囲でより根雪始に近い時期に散布する。 なお、以下に示す残効の目安は、再散布の要否を判断する際にも活用できる。			
防除時期の例	芽室町：11月2～3半旬、訓子府町：11月2～3半旬		*過去30年間で最も早い根雪始(芽室町11月16日、訓子府町11月17日)	